

2025 早稲田大学 商学部 数学 解答例

1

ア  $2 \cdot 3^{-\frac{3}{4}}$

イ  $\frac{(n-1)(2025-n)}{2}$

ウ  $40x^2$

エ 192 通り

2

(1)  $P_{2m-1}(0, y_{2m-1})$  とおく. このとき  $P_{2m}(0, -y_{2m-1})$  であるから,

$$y_{2m+1} = 1 - (-y_{2m-1} - 1) = y_{2m-1} + 2.$$

よって,  $\{y_{2m-1}\}$  は初項  $y_1 = 0$ , 公差 2 の等差数列で,  $y_{2025}$  はこの数列の第 1013 項より

$$y_{2025} = 2 \cdot (1013 - 1) = 2024.$$

これより

$$\underline{\underline{P_{2025}(0, 2024)}}$$

となる.

(2) 直線  $y = x$  に関して  $(X, Y)$  と対称な点は  $(Y, X)$  であることに注意して  $P_2, P_3, \dots$  を求めていく.

$$P_1(2, 1), P_2(2, -1), P_3(-1, 2), P_4(-1, -2), P_5(-2, -1), \\ P_6(-2, 1), P_7(1, -2), P_8(1, 2), P_9(2, 1), \dots$$

よって, 点列  $\{P_n\}$  は周期 8 をもち,

$$P_1 = P_9 = P_{17} = \dots = P_{8k+1} = \dots$$

であることが分かる. ここで  $2025 = 8 \cdot 253 + 1$  より

$$\underline{\underline{P_{2025}(2, 1)}}.$$

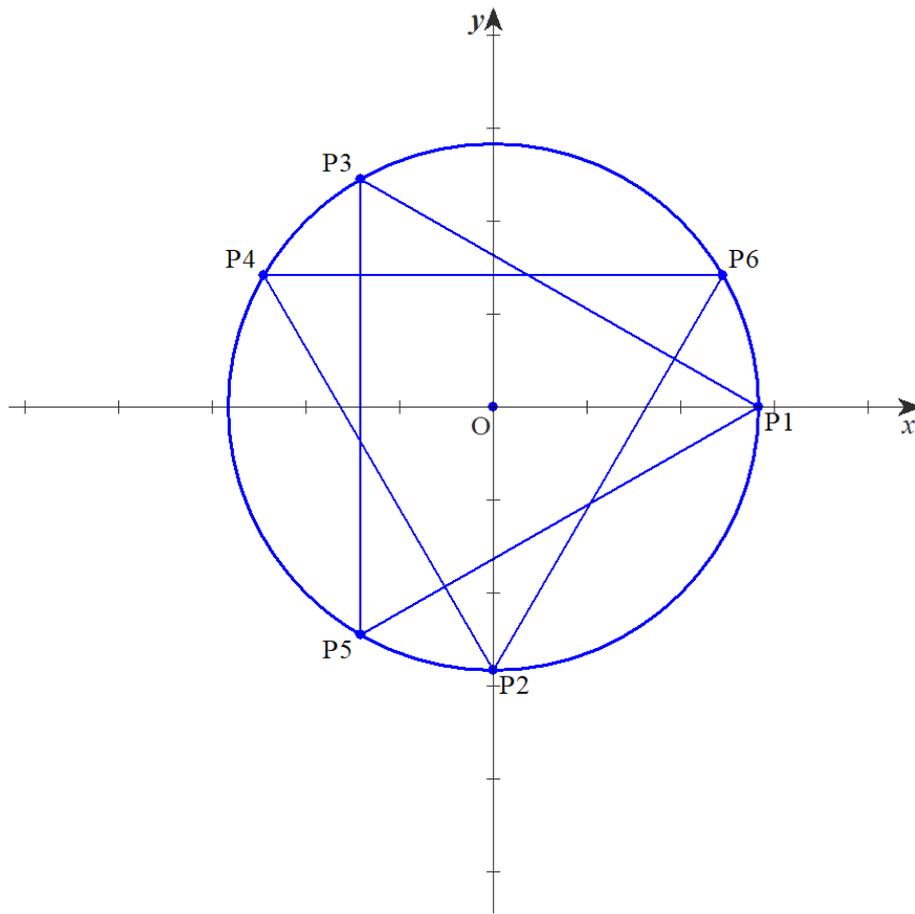
(3) 直線  $y = \sqrt{3}x$  に関して  $(X, Y)$  と対称な点は  $\left(\frac{-X + \sqrt{3}Y}{2}, \frac{\sqrt{3}X + Y}{2}\right)$  であることに注意して  $P_2, P_3, \dots$  を求めていくと,

$$P_1(1, 1), P_2(1, -1), P_3\left(\frac{-1 - \sqrt{3}}{2}, \frac{\sqrt{3} - 1}{2}\right), P_4\left(\frac{-1 - \sqrt{3}}{2}, \frac{-\sqrt{3} + 1}{2}\right), \\ P_5\left(\frac{-1 + \sqrt{3}}{2}, \frac{-\sqrt{3} - 1}{2}\right), P_6\left(\frac{-1 + \sqrt{3}}{2}, \frac{\sqrt{3} + 1}{2}\right), P_7(1, 1)$$

より点列  $\{P_n\}$  は周期 6 をもつ. ここで  $O(0, 0)$  として  $P_1, P_3, P_5$  および  $P_2, P_4, P_6$  がなす三角形をそれぞれ考えると,

$$OP_1 = OP_2 = \dots = OP_6 = \sqrt{2}, \\ \overrightarrow{OP_1} + \overrightarrow{OP_3} + \overrightarrow{OP_5} = \overrightarrow{OP_2} + \overrightarrow{OP_4} + \overrightarrow{OP_6} = (0, 0)$$

であり, 外心と重心が一致することよりこれらは正三角形である. さらに, 点  $P_2$  は  $P_1$  を,  $O$  を中心として時計回りに  $\frac{\pi}{2}$  回転させたものであるから, 適当に回転して考えれば,  $P_1, P_2, \dots, P_6$  の位置関係は下図のようになる.



$P_m P_n$  が最大になるのは、 $\angle P_m O P_n$  が最大になるときである。上図より  $\angle P_1 O P_4 = \frac{\pi}{2} + \frac{\pi}{3} = \frac{5\pi}{6}$  が最大である。ここで余弦定理より

$$P_1 P_4^2 = 2 + 2 - 2 \cdot 2 \cos \frac{5\pi}{6} = 4 + 2\sqrt{3} = (\sqrt{3} + 1)^2$$

であるから、求める最大値は

$$\sqrt{3} + 1$$

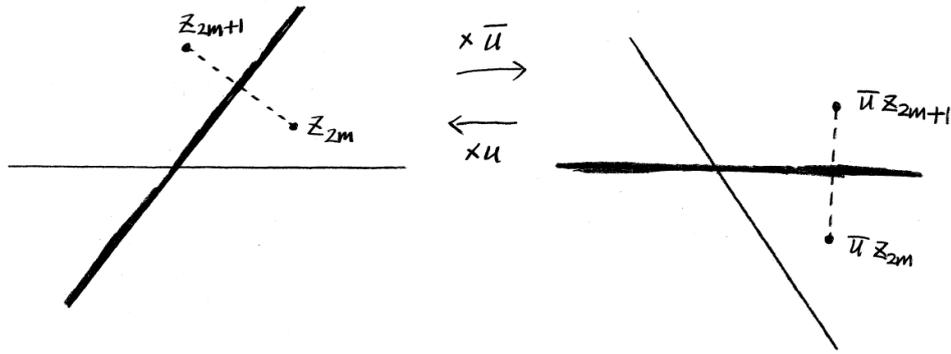
となる。

(参考) 出題範囲外ではあるが、複素数平面の問題としてとらえると考えやすい。座標平面と複素数平面を同一視し、 $P_n$  に対応する複素数を  $z_n$  とする。

(2)  $u = \frac{1+i}{\sqrt{2}}$  とすると下図から

$$\begin{aligned} z_{2m} &= \overline{z_{2m-1}}, \\ z_{2m+1} &= u(\overline{u z_{2m}}) \\ &= u^2 \overline{z_{2m}} \\ &= i z_{2m-1} \end{aligned}$$

となり、これより  $z_{2m+9} = i^4 z_{2m+1} = z_{2m+1} = \cdots = z_1$  が分かる。



(3) (2) と同様に考えて  $w = \frac{1 + \sqrt{3}i}{2}$  とすれば

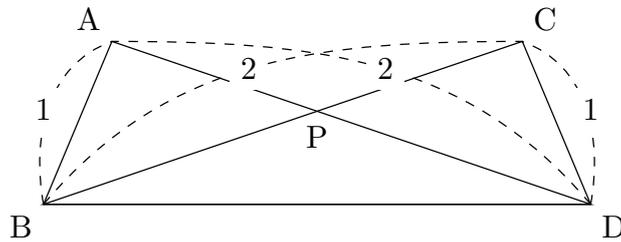
$$z_{2m+1} = w^2 z_{2m-1} = \frac{-1 + \sqrt{3}i}{2} z_{2m-1},$$

$$z_{2m+2} = \overline{z_{2m+1}} = \frac{-1 - \sqrt{3}i}{2} z_{2m-1} = \frac{-1 - \sqrt{3}i}{2} z_{2m}$$

より  $P_n$  は,  $n$  が奇数のとき反時計回りに  $P_1, P_3, P_5$  の順に並ぶ正三角形,  $n$  が偶数のとき時計回りに  $P_2, P_4, P_6$  の順に並ぶ正三角形であることが分かる.

3

(1)



まず線分 AD と線分 BC が交わることから 4 点は上図のように同一平面上にある。 $\triangle ABD$  と  $\triangle CDB$  は三辺が等しいので合同。よって  $\angle BAD = \angle DCB$ 。これと  $\angle APB = \angle CPD$  より  $\triangle ABP \sim \triangle CDP$  となるが、 $AB = CD = 1$  なので  $\triangle ABP \cong \triangle CDP$  である。よって

$$2t = BP = PD = 2 - 2s$$

となるから、

$$s = 1 - t.$$

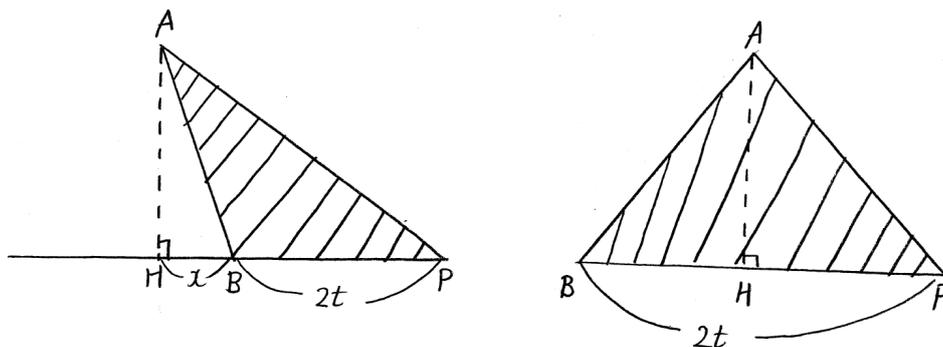
(2)  $\triangle ABP$  において三角形の成立条件

$$\begin{cases} 1 + 2t = AB + BP > PA = 2 - 2t, \\ 2t + (2 - 2t) = BP + PA > AB = 1, \\ (2 - 2t) + 1 = PA + AB > BP = 2t \end{cases}$$

より

$$\frac{1}{4} < t < \frac{3}{4}.$$

(3) A から BC に下ろした垂線の足を H とする。  $BP + AP = 2$  より AB の長さは BP, PA のどちらか以下であることに注意すると、H は半直線 PB 上にあることが分かる。



上左図のとき，問題の回転体の体積は

$$\frac{1}{3} \cdot (2t + x) \cdot AH^2\pi - \frac{1}{3} \cdot x \cdot AH^2\pi$$

であるから，上図のどちらの場合でも体積  $V$  は

$$V = \frac{1}{3} \cdot 2t \cdot AH^2\pi$$

で与えられる．ここで余弦定理を用いて

$$\begin{aligned} 1 = AB^2 &= (2t)^2 + (2 - 2t)^2 - 2 \cdot 2t(2 - 2t) \cos \angle APB \\ &= 8t^2 - 8t + 4 + 8(t^2 - t) \cos \angle APB \end{aligned}$$

より

$$\begin{aligned} \cos \angle APB &= \frac{8t^2 - 8t + 3}{8(t - t^2)} \\ &= -1 + \frac{3}{8(t - t^2)} \end{aligned}$$

であるから，

$$\begin{aligned} \sin \angle APB &= \sqrt{1 - \left(-1 + \frac{3}{8(t - t^2)}\right)^2} \\ &= \frac{\sqrt{-48t^2 + 48t - 9}}{8(t - t^2)}. \end{aligned}$$

よって

$$\begin{aligned} V &= \frac{2t\pi}{3} (AP \sin \angle APB)^2 \\ &= \frac{2t\pi}{3} \left( \frac{\sqrt{-48t^2 + 48t - 9}}{4t} \right)^2 \\ &= \frac{\pi}{24} \left\{ 48 - \left( 48t + \frac{9}{t} \right) \right\} \end{aligned}$$

であるが，相加平均と相乗平均の関係式より

$$48t + \frac{9}{t} \geq 2\sqrt{48t \cdot \frac{9}{t}} = 24\sqrt{3}.$$

等号成立は  $48t = \frac{9}{t}$ ，すなわち  $t = \frac{\sqrt{3}}{4}$  のときで，これは  $\frac{1}{4} < t < \frac{3}{4}$  の範囲に含まれている．以上より，求める最大値は

$$\frac{\pi}{24} (48 - 24\sqrt{3}) = \underline{\underline{(2 - \sqrt{3})\pi}}$$

となる．